

シャロームメモ

2019. 9. 18

第11号

1. 「シャローム平和のための祈りのセンター 9月の意向」を共に祈りましょう

今月は以下の祈りの意向が寄せられました。 恵みの家が全世界の SSND を代表して世界の平和を祈る毎月の 23 日に、コミュニティーで、個人で、または関わりある方々と共に心を合わせて祈りましょう。

- ① ・外国にルーツを持つ子供たちの中に、文化の違いや言葉の問題のために、能力がありながら学校の授業についていけず、苦しんでいる子供たちがいます。子供たち一人一人に必要な支援が与えられますよう、また、私たちが多様性のある社会を生きること成長できますよう、神の助けと導きを祈ります。
- ② ・愛知県で行われた「表現の不自由展」が「平和の少女像」などが展示されたことで、反対の声や脅迫行為があり中止されました。その後も様々の波紋を呼んでいます。異なる意見や思いがある中で、相手の声に耳を傾け、新たな発見をし、対話することに成長させてください。
- ③ 80万人もの命が奪われたルワンダ大虐殺から25年。キリスト教系団体のセミナーをきっかけに始まったある女性グループには、虐殺された人の遺族や虐殺に加担した男の妻がいます。このセミナーに参加して「憎しみを持ち続けるのはつらい。赦すということは自分にとっても重要だった」と語り、加害者の妻からの謝罪を受け入れた女性がいます。極限の苦しみの中で「敵を愛そう」とするその方々の心に私達も習うことができますよう照らし導いてください。
- ④ 9月1日から10月4日までの『創造の季節』にあたり、被造界のすばらしさ、美しさに心を開き、そこで神に出会う恵みを祈ります。そして、自分たち自身が被造物であることを深く実感し、被造界を大切に作る生き方を選び取って行くことができますように。
- ⑤ 9月23日から、国連気候行動サミットが始まります。各国が自国の利益を守る姿勢を超え、存続の危機にさらされている地球を一致して守るグローバルな姿勢で大胆な行動計画を生み出すことができますサミットを導いてください。

- ⑥ 8月15日、日本正平協会長の勝谷太治司教は日韓の和解への努力を呼びかける談話を発表されました。同日、韓国の正平協委員長ペ・ギピョン司教も勝谷司教の姿勢に『一致と連帯』の意向を表明されました。政治の世界の硬直を、カトリック教会の連帯をもって超えて行くことができますように。

2. 10月の『国際シャローム平和を祈る日』の意向を募集しています。

幅広く社会のニーズに心を向けて祈るため、多くの皆さまのご応募をお待ちしています。

10月15日（火）までに本部オフィスまたはS. ジュディスにお届けください。平和のための祈りのセンターはシャローム活動の発電所です。毎月23日の祈りを通して、世界の苦しむ人々のため、世界平和への様々な取り組みとその実現のため、自然界に健全さを取り戻すため、私たち自身がこれらの課題への気づきに成長し行動して行くことができるようになるため、心を合わせて祈りましょう。

より多くの皆さまから祈りの意向が寄せられることで、私たちの祈りの視野が広がり、深まります。よろしく願いいたします。

3. お知らせ

『9条 京都のつどい 2019～講演と全体会～』のチラシをお届けします。

場 所：龍谷大学深草キャンパス22号館 /京阪『深草』駅下車、西へ徒歩3分

日 時：10月5日（土） 午後2時～4時半

入場無料（会場カンパはあります）

講 師：渡辺 治氏（一橋大学名誉教授・九条の会事務局）

テーマ『参議院選挙後の憲法情勢と憲法運動の新たな課題』

参議院選挙で自民党は9議席を減らし、単独では過半数割れになっていますが、安保法制の具体化や、軍事力強化は着々と進めています。臨時国会では憲法審査会の再開を目指すことでしょう。新しい状況下で、改憲の動きにどう対応すべきかを考えるヒントを頂くよい機会です。ふるってご参加ください。

チラシは多めに入れますので、広く他の方々にも分かち合ってください。